



NOBEOKA
ART EXHIBITION

市	69th
美	展

いちばん近いアート展

入賞・入選
目録

洋画部門

特選
延岡市長賞



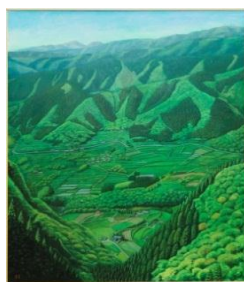
入り江の隅から(水彩)

市原哲郎

講評 描写力に優れたテクニカルな作品です。細部の鋭い写実と美しい筆使いの簡略された表現のバランスが素晴らしく、絵画の醍醐味を感じます。

準特選

宮崎県知事賞



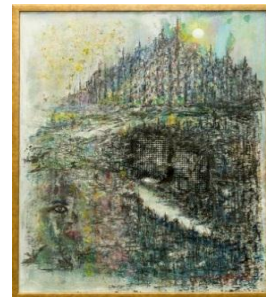
山間の集落(油彩)

杉本晃一

講評 山野を巡っているかのごとき気持ちにさせる、地を知り尽くしたリアリティを感じる味わいのある作品です。

準特選

延岡市文化連盟会長賞



夢ミルービル街 Nobeoka(パステル、アクリル、木炭)

蓑毛覚

講評 マチエールの美しい作品です。街のにぎやかな音を色彩やタッチに置き換えたセンスは評価できます。



洋画部門審査委員

氏名 古本 元治 (初)
所属 九州産業大学芸術学部教授

入賞作品

無鑑査

奨励賞 延岡市医師会長賞	赤澤隆	2019. 自画像(油彩)	後藤光雄	合掌(アクリル)
奨励賞 延岡商工会議所会頭賞	藤本恵三	ウォッチの部屋(版画)	田中節子	祈(油彩)
奨励賞 宮崎日日新聞社賞	上原順子	むすぶ(油彩)	米良俊男	行滕幻想(アクリル)
奨励賞 延岡市美術展覧会実行委員長賞	大山久雄	高原への誘い(油彩)	八木隆幸	まるの詩・2019-03-16(油彩)
努力賞	眞田昌良	待ってるね、ばあちゃん(水彩)		
プラチナ賞	塩月眞	青森・奥入瀬の春(アクリル)		

入選者

アーナー恵子	神々の山から	こんにちは	油彩	水津保	孫「出演前夜のリハーサル」	油彩
池田見一	古色蒼然		油彩	関哲子	まつりの中で	油彩
上山晴久	南風を待つ		油彩	寺地良子	楽しいね	油彩
大坪眞佐子	聖母マリアの警鐘		油彩	茄子田洋子	行滕山遠望	水彩
落合直文	大吉		油彩	成合英子	大崩三里河原	水彩
甲斐トシ子	二人の孫ちゃん		アクリル	野村幸枝	遠い日～糧を求めて	油彩
片寄未砂子	雲の下の我街(延岡)		油彩	深田葉月	ぼくのベンチ	油彩
川内寧彦	幾星霜		水彩	三谷文男	孤独な令和	油彩
川崎圭子	樹魂・令和元年		油彩	三橋良男	バイオレットブルー	色鉛筆
木村マシ子	音楽祭		油彩	八木千穂子	庭園X V 2019.6	水彩
久保ケイ子	城址の道(延岡)		油彩	柳田佳代	幸せの刻	水彩、パステル
窪田利重	波の記憶(朝の陽光)		油彩	山崎郁夫	牧水公園の展望台	水彩
古小路禮子	はな籠		水彩	陸丸敦子	根子岳の朝	油彩
佐藤利治	忘れてはならないこと		油彩			
佐藤幸義	臼太鼓踊り		油彩			
首藤孝子	光景 I (菩薩と夜叉の心)		油彩			
白石幸代	令和の春		油彩			

日本画 ・ 水墨画 ・ ちぎり絵等 部門

特 選

延岡市長賞



薩摩の詩(日本画)

有田和哉

講
評

今回の出品作品の中で唯一の大作であり、創作者としてのエネルギーも含め更なる研鑽の期待も込めての受賞となりました

入賞作品

無鑑査

奨励賞

森福子

秋の便り(ちぎり絵)

原辰義

力が宿る社殿(剪画)

延岡市議会議長賞

努力賞

大隅萌絵

妹(日本画)

プラチナ賞

中山須磨子

椿(日本画)

入選者

井崎歌子
岡田洋子
佐多光夫

孔雀サボテン
峡谷
不動池の辺

ちぎり絵
ちぎり絵
水墨画

戸高秀喜
山本照光

曼珠沙華
石垣の村

日本画
切り絵



日本画 ・ 水墨画 ・ ちぎり絵等部門審査委員

氏名 中村 賢次 (2回目)
所属 日展特別会員・崇城大学芸術学部長

デザイン 部門

特 選

延岡市長賞

特選、準特選とも今回は該当がありませんでした

入賞作品

無鑑査

奨励賞

守口亜美

命をいただく

木田柁子

双壁

延岡市美術展覧会実行委員長賞

努力賞

玉木藍子

令和～主役は私(グラフィックデザイン)

工藤晏生

あなたのふるさは

入選者

梅木三千世 9番目の惑星 グラフィックデザイン
吉留光紀 お弁当教室



デザイン部門審査委員

氏名 岩上 孝二 (3回目)
所属 (公社)日本グラフィックデザイナー協会会員 本部運営委員
崇城大学芸術学部教授

いちばん近いアート展



彫刻 ・ 工芸 部門

特 選

延岡市長賞



太古の雄姿(立体)

甲斐卓雄

講
評

まず作品の大きさに心を奪われますが、その大きさは寸法の上からだけでなく、シーラカンスと思われる古代魚の姿を大胆に構成したそのデザインにあると言えます。蒼古な趣の彩色にも大変工夫が凝らされています。

準特選

延岡市文化連盟会長賞



銀杏、イチョウ、イチョウ(パッチワーク)

伊作とよ子

講
評

大きく力強い構図の中にも細やかな心くばりが見られ、秋晴れの爽やかさを感じさせる優品といえます。



彫刻・工芸部門審査委員

氏名 辻嶋 寿憲 (4回目)
所属 九州産業大学造形短期大学部教授

入賞作品

無鑑査

奨励賞

黒木勘次

イサン(ミニチュア)

芝行則

静かな森(彫刻)

旭化成(株)延岡支社長賞

奨励賞

工藤武人

窯変土瓶(陶芸)

武田弘子

早春の彩(友禅染)

延岡市美術展覧会実行委員長賞

努力賞

櫻井恵理子

縄張り(水引)

中村有子

金彩幾何紋器「令」(陶芸)

入選者

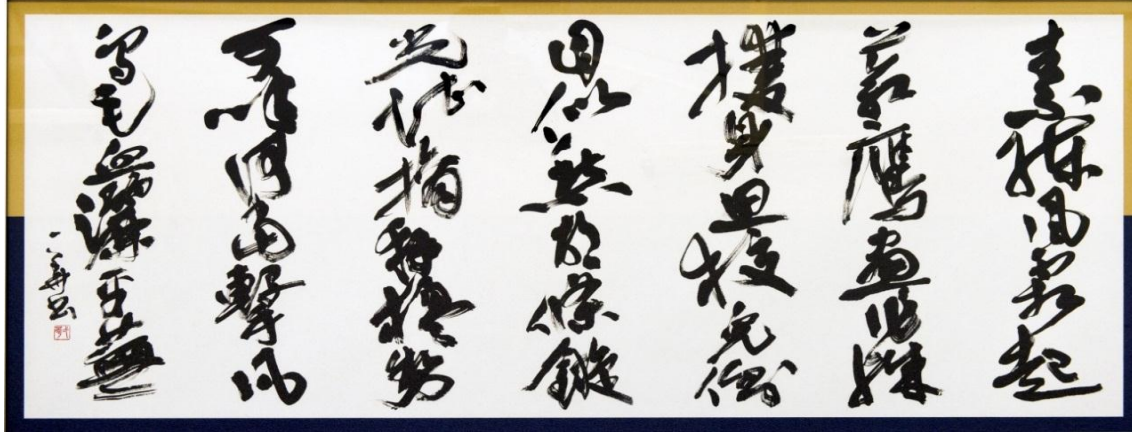
秋本富美子
 壱岐陽子
 甲斐富美子
 甲斐正行
 椛島福久美
 草野節子
 黒木英勝
 関武司
 高見昭夫
 田上多津美
 野間啓子
 藤本竜也
 右田昭二
 宮尾徹
 宮崎龍夫
 山本正義
 山本陽子

私の道具入れ
 ブーゲンビリア
 太陽に向かって
 ひよっとこ
 ダイナミック
 花の華
 秋峰
 水芭蕉
 灯り
 令和に煌めく春
 一夜限りの美しき月下美人
 黒天目長皿「晩秋」
 能面 獅子口
 手造りヨット
 波紋
 能面(三光尉)
 馬

竹細工
 友禅染
 パッチワーク
 彫刻
 パッチワーク
 パッチワーク
 陶芸
 陶芸
 竹工芸
 友禅染
 押し花
 陶芸
 彫刻
 ミニチュア
 陶芸
 彫刻
 ビーズ織

書道部門

特選
延岡市長賞



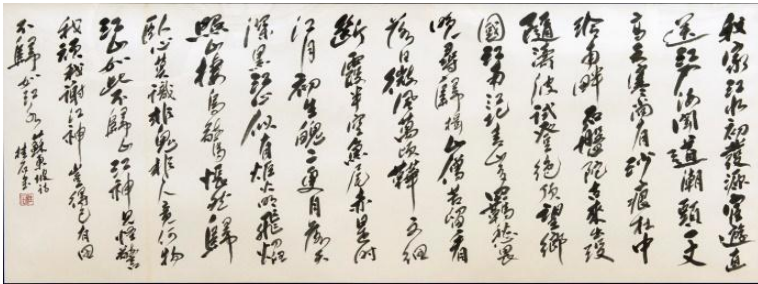
畫鷹

岡崎亜希子

講評 横広の造形の雄大さに存在感あふれる線があいまって、匂い立つような風韻がただよっていました。

準特選

延岡市教育長賞



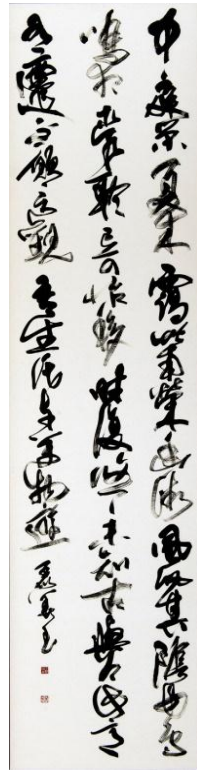
蘇東坡詩

植野洋一

やや淡い墨色で品格あふれる作品に仕上がっていました。無理のない柔か味あふれる線が何よりも修練の賜と思います。

準特選

延岡市文化連盟会長賞



夏晝(昼)齋居

小野静

講評 流れるような律動美の中に、潤渴の妙が加味され、奥行きと立体感が生まれた佳作でした。



書道 部門審査委員

氏名 松清 秀仙 (4回目)
所属 日展会員・鹿児島大学名誉教授・読売書法会常任理事

入賞作品

無鑑査

奨励賞

米田忠雄

子夜四時の歌 春歌

無鑑査・招待作家

西村香枝子

晩晴江上

旭化成（株）延岡支社長賞

奨励賞

牛迫孝子

王漁洋詩

無鑑査・招待作家

山浦秀子

岡本花亭の詩

延岡農業協同組合代表理事組合長賞

奨励賞

河内真弓

遊春

無鑑査

植野春雄

李白詩

延岡市歯科医師会会長賞

奨励賞

飯干朗

小谿

無鑑査

尾崎真人

漢語

延岡市美術展覧会実行委員長賞

努力賞

岡田雅子

馬戴詩

無鑑査

西村寿洋

五嶺

プラチナ賞

年森恵

曲江對酒

無鑑査

城戸雅子

露すがる

招待作家

大塚洋子

西嶽雲臺歌

招待作家

原田さゆり

金陵駅

入選者

青柳有伸 杜侍御送貢物戯贈
 安藤チカ子 高青邱詩
 伊藤由美子 夏草の大野をこめて
 上杉秀子 五嶺
 上野和子 つくづくと
 植野寿美 凌雲絶頂
 植野幸雄 王維詩
 上原幸子 登観音閣眺望
 岡村公子 村夜
 小田千穂 つくづくと
 甲斐かおり 憶妻子柔
 甲斐タヅ子 笛を聞く 外一首
 甲斐睦子 春日雨中示友人
 甲斐洋子 李頎詩
 城戸裕行 羅漢院
 黒木正子 李頎詩
 小坂千代子 王維詩

坂本淳 道在瓦甃
 佐藤ナオミ 游青蓮寺
 篠原和子 秋池 他一首
 谷口隆幸 唐詩
 丹波のり恵 聴雨
 中田由美子 杜甫詩
 西田登美子 玩秀軒
 平野優子 習隱
 三浦律子 擬蘭若生朝陽
 山本加代 真書千字文
 吉岡陽子 漢中府
 渡邊康子 感興

写真部門

特選

延岡市長賞



初夏の宵

甲斐靖一

講評

絶好のシャッターチャンスを的確に捉えられ、メルヘンチックな絵に仕上げられました。蛍の光に注目した着眼点が素晴らしく、縦位置の画面構成で、花のフォルムや光の明暗の変化などにも配慮された絵作りが秀逸でした。作者の花や蛍に寄せる優しさやデリケートな感性が読み取れます。

準特選

宮崎県教育長賞



降臨の刻

福川原敏憲

講評

茜色に染め上げられた空のグラデーションの彩りが、とても美しく魅力的です。神秘的な空気が漂う情景描写に仕上げられました。また、この画面で最も印象深く、荘厳な雰囲気を出しているのが新月の姿。こんな繊細な月の表情も見逃さずしっかりと絵作りされた視点が絶妙でした。

準特選

延岡市教育長賞



あの日の思い出

千葉雄一

講評

ノスタルジックなイメージを感じさせる校舎のような建物の前で、赤い傘をさす女性の姿が印象的に配られています。心象風景的な雰囲気が出た表現に、独特の趣きや物語性が感じられ、とてもおもしろい独創性に富んだ絵に仕上がっています。千葉さんの柔軟な発想と絵作りの巧みさが光りました。



写真部門審査委員

氏名 江口 慎一 (3回目)
所属 (公社) 日本写真家協会会員

準特選

延岡市文化連盟会長賞



鯉のぼりストリート

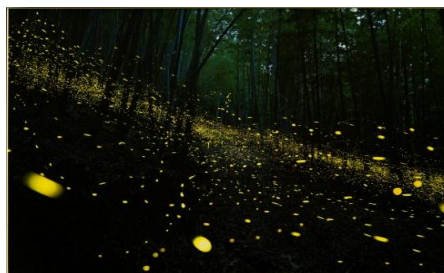
雀ヶ野秀憲

講評

とてもおもしろい情景が巧みに表現されています。非現実的なモチーフの中で、その意外性のある状況をしっかりと見極め、まるで鯉のぼりのお腹の中に入ったようなイメージをおもわせるユーモラスな絵作りでまとめ上げられました。人物を画面に配したことで、被写体のスケール感が読み取れ、よりインパクトのある画面に仕上がっています。

準特選

延岡市文化連盟会長賞



山峡の蛍

戸高一

講評

水辺に輝きを放つ蛍の光の軌跡が見事に表現されました。妖艶な色合いに染まる流れの色調描写も絶妙で、蛍の光をより印象深く演出しています。画面を通して、その場の清浄な雰囲気や静寂感が伝わってくるような気がします。流れを真正面から捉えたシンメトリックな構成が奥行き感を強調し、味わい深い空間表現に繋がりました。

入賞作品

無鑑査

奨励賞

甲斐孝一

竹林のイルミネーション

延岡市議会議長賞

無鑑査

後藤司郎

阿蘇夕照

奨励賞

後藤秀彦

夏の誘惑

延岡市医師会長賞

無鑑査

高橋ミサ子

眼

奨励賞

阿部節子

雨あがり

夕刊デイリー新聞社賞

奨励賞

児玉美智子

花筏

延岡市西臼杵郡薬剤師会長賞

奨励賞

大山久雄

春のこのひととき

清本鐵工(株)社長賞

奨励賞

笠村陽一

神降る里山

センコー(株)東九州主管支店長賞

奨励賞

林喜代徳

夜明け

延岡市美術展覧会実行委員長賞

努力賞

小田中等

桜の咲く頃

プラチナ賞

川端章

捕まえたど～!

写真部門入選者

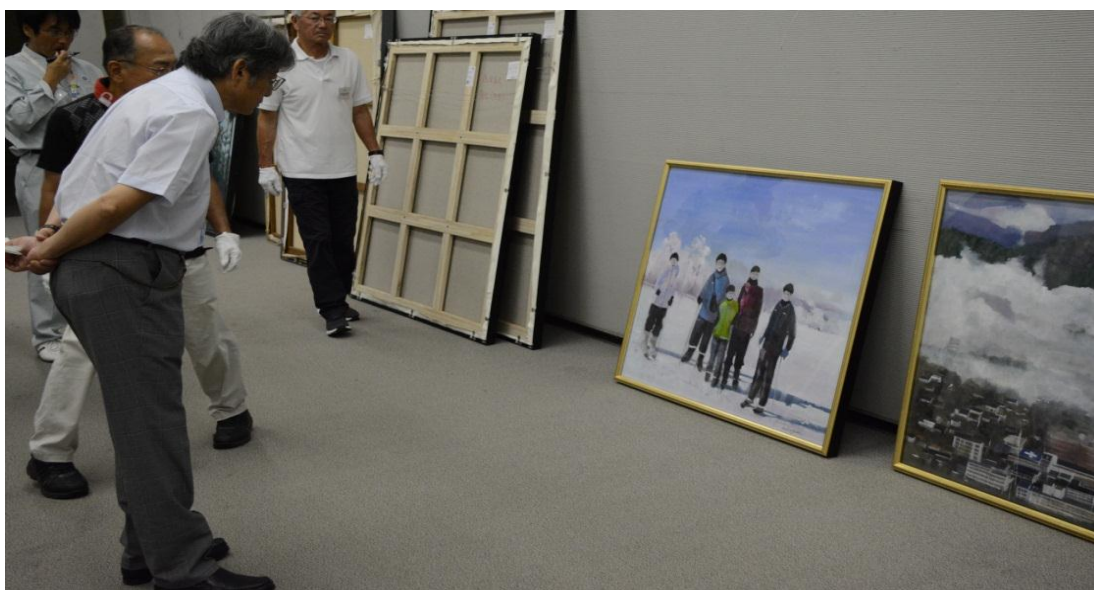
赤池泰男
有田和哉
飯干幸一
井本三好
岩切恵美子
内倉政子
大川内かつ子
岡崎宏之
緒方正光
岡野勉
乙部武志
甲斐啓一
甲斐民人
甲斐直志
川越洋治
川野政弥
菊池貢
工藤杏菜
黒木男
小出恒子
古賀公多郎
小松清春
酒井義満
坂脇昭吉
笹田照夫
佐藤賢司
佐藤孝夫
澤由美子
島田眞由美
重黒木周作
白谷俊一
杉天夫
高島章碩
高萩和夫
竹内寛
田中芳典
田上誠
田村武志
段ノ上三男
年森徹

蜜をもとめて
田の神さあ(実りの秋)
初夏の里山
早春の棚田
夕暮れ時
黄彼岸花に舞う黒アゲハ蝶
朝光の森
うまさん、かわいい！
叫び交わる
神里の雲海
雨あがり
飽食の刻
けあらし
楽しいひととき
モロッコの革なめし作業所
夜桜と星空
黎明のミヤマキリシマ
荒神怒気
放水
ときめきの春
夢世界
光彩
初夏の扇棚田
パラソル
噴き上がる火の粉
紅葉鏡
夜更けの築
ハイポーズ
舞
流れゆく喧騒と青空と
朝焼けの風車
山門を彩る櫻
祭田の神馬
白鷺
彼岸花
行滕おろしの吹く頃
space flight
光射す
朝焼け
星屑

富山隆志
富山恵
長友道生
中村康政
那須重人
日高昭子
日高日出男
藤田一明
藤本竜也
堀田宗範
増田豊水
宮崎金男
宮良信道
三輪慶八
持原弘和
守田敏和
守田陽子
山元順子
吉村俊祐

早春の舞
炎の舞
森のめざめ
けあらしの日に
濃霧の木立
しずくの花
紅の残映
捕食
「自分の刻」
船出
師走まつり
夕照の棚田
神秘の炎
躍動
早日渡の春
のぞき見
激流にトライ
秋色に包まれて
遭遇

審査講評
【洋画部門】



講評

第69回延岡市美術展覧会において洋画部門を審査させて頂きました。初めて訪れた延岡市は穏やかな美しい風情の佇まいがあり、出品作品もその風を感じました。

特選：市原哲郎さんの「入り江の隅から」は、描写力に優れたテクニカルな作品です。細部の鋭い写実と美しい筆使いの簡略された表現のバランスが素晴らしく、絵画の醍醐味を感じます。

宮崎県知事賞：杉本晃一さんの「山間の集落」は、山野を巡っているかのごとき気持ちにさせる、地を知り尽くしたリアリティを感じる味わいのある作品です。

延岡市教育長賞：蓑毛覚さんの「夢みる-ビル街 Nobeoka」は、マチエールの美しい作品です。街のにぎやかな音を色彩やタッチに置き換えたセンスは評価できます。

延岡市医師会長賞：赤澤隆さんの「2019.自画像」は、大胆な構成とユーモラスな表現がバランス良く、力強さを感じました。

延岡商工会議所会頭賞：藤本恵三さんの「ウォッチの部屋」は、美しい色彩で構成された作品です。時計を主役に使ったアイデアは素晴らしい。

宮崎日日新聞社：上原順子さんの「むすぶ」は、現代のSNSなどのコミュニケーションによる日常を連想させる社会性のある作品です。描写力に優れ画面構成も的確です。

延岡市美術展覧会実行委員長賞：大山久雄さんの「高原の誘い」は、バイオレットを基調色とした幻想的な作品です。リズムの良いタッチが表現に幅をもたせています。

努力賞：眞田昌良さんの「待ってるね、おばあちゃん」は、素朴で丁寧な表現は好感を持てます。特に顔の描写は魅力的ですね。

プラチナ賞：塩月眞さんの「青森・奥入瀬の春」は、遠景の森の豊かな色彩が美しく、前景を引き立てています。

惜しくも賞候補や選外となった作品にも、心惹かれるものが多くありました。いつまでも楽しく取り組んでいただければ、素晴らしい作品が必ず生まれます。次回の出品を楽しみにしています。

洋画部門審査委員

古本 元治
九州産業大学芸術学部教授

審査講評

【日本画・水墨画・ちぎり絵等部門】



講評

今回、日本画・水墨画・ちぎり絵等の審査をさせて頂きました。来年には70周年を迎える伝統ある公募展でありますので、私も大変緊張して拝見しました。

審査に当たりまして三つの異なる表現様式や画材のジャンルを一堂に拝見しますので、日本の文化に根付いた平面表現として同列に評価致しました。

特に作者がいかに対象と向き合ったのか、それをどのように表現しようとしたのかを中心に素材やジャンルを越えて平面の中に存在する空気の感触を大切にしました。

その結果、〈特選〉の「薩摩の詩」は、今回の出品作品の中で唯一の大作であり、創作者としてのエネルギーも含め更なる研鑽の期待も込めての受賞となりました。〈奨励賞〉の「秋の便り」は、日本人が日常の中で何気なく感じ取る季節の気配を落ち着いた色調で表現されていることを評価致しました。

〈努力賞〉の「妹」は、日本画の岩絵の具の重なりによる穏やかで深みのある発色が空間の温かさを感じさせる秀作であると思いました。

今回、残念ながら選外になられた方もいらっしゃいますが、作品として劣るものではなく、もう一つもう少し対象と出会った時の驚きや、その場の匂いのようなものが伝われば良いなと思いました。

日本画をはじめ日本の生活文化に根付いた表現は、作者がいかに季節や時間の移ろいの中で出会った「美」を感じ取るかに始まるものであると思います。

最後に、来年70周年を迎えられる延岡市美術展が、皆様のお力で盛会となられますことをお祈り致します。

日本画・水墨画・ちぎり絵等部門審査委員

中村 賢次

日展特別会員・崇城大学芸術学部長

審査講評
【デザイン部門】



講評

第69回 延岡市美展 デザイン部門の審査を担当させて頂きました。九州各地の県、市美展の審査に度々担当させて頂いていますが、残念ながら、近年の傾向としてどの会場でも出品数が減少してきています。ITの普及とデザインメディアの急激な変化に伴い、求められる価値観も時代に沿って大きく変わって来ているように見受けられます。デザインの現場では、クリエイティブからオプティマイズへ、つまり「それ以上の創造表現」より、「目的の答えとしての最適な表現」が求められています。 「デザインは常に時代に寄り添っている」ということでしょうか。デザイン部門の出品数の減少もそんなことが影響しているのかもと、考えさせられてしまいました。しかしながら、今回の出品作はどれもプリミティブな魅力を持っていて、デザインの原点を感じる作品でした。延岡市美展実行委員長賞の「命をいただく」は、メッセージテーマを、大胆な構図の構成力と丁寧な手描き描写とともに秀逸な表現として評価しました。新しい時代「令和」と共に、私たちのデザインの世界にも、その時代に沿ったアイデンティティとイノベーションが求められている事を強く感じています。

デザイン部門審査委員

岩上 孝二

(公社)日本グラフィックデザイナー協会会員 本部運営委員
崇城大学芸術学部教授

審査講評
【彫刻・工芸部門】



講評

昨年に続いての審査、都合四回目の審査をさせていただきました。

彫刻・工芸部門は、陶芸あり、染色あり、竹工芸ありと多種多様な素材、技法の作品が出品されますが、どの作品にも共通して言えることは、作り手の皆さんが技術の修練に励まれつつも作品に愛情を注ぎ、手作りの世界に心を遊ばせておられることが、見る者に確実に伝わってくることです。

今回、応募作品数三十九点の中から規定により二十二点の作品を選出しましたが、その選出の基準として技術の確かさと洗練とともに、作品デザインの独自性とおもしろさに観点の重きを置きました。

美術展であるからには、出展作品にはどこかで見たことのあるような作品の姿ではなく、作者の創意工夫が如実に感じとられるデザインが求められます。

それでは、受賞作品について、少々述べさせていただきます。

延岡市長賞「太古の雄姿」まず作品の大きさに心を奪われますが、その大きさは寸法の上からだけでなく、シーラカンスと思われる古代魚の姿を大胆に構成したそのデザインにあると言えます。蒼古な趣の彩色にも大変工夫が凝らされています。

延岡市文化連盟会長賞「銀杏・イチョウ・イチョウ」 昨年もそうでしたが、パッチワークの作品群はどの作品も作者独自の創意工夫が凝らされ、エネルギーが溢れていますがその中でもこの作品は、大きく力強い構図の中にも細やかな心くばりが見られ、秋晴れの爽やかさを感じさせる優品といえます。

旭化成(株)延岡支社長賞「イサン」 どっしりと大きな茅葺きの古民家が、細部にいたるまでしっかりと作り込まれ、見る人皆の心に「なつかしさ」を呼び起す作品です。

延岡市美術展覧会実行委員長賞「窯変土瓶」 大ぶりの土瓶がしっかりとしたロクロの技で碾き上げられ、ゆったりとした姿の中にどこかユーモラスな気分も感じられます。土味と飛びカンナの技法がマッチし、窯変の色あいも落ち着いた美しさです。

彫刻・工芸部門審査委員

辻嶋 寿憲

九州産業大学造形短期大学部教授

審査講評
【書道部門】



講評

伝統ある延岡市美術展覧会で、昨年に続いて都合四回目の審査に当たらせて頂き、光栄に存じております。昨年のレベルの高さを思いおこし、期待感をもって臨みました。出品者の真摯な取り組み、指導者の熱意が伝わってきました。

さて、講評を述べるに先だち、先日の元号「令和」の発表時、手書き文字が示されました。活字と異なり、手書き文字には人の琴線に触れるものがあることを再認識しました。手書きの大切さ、書の魅力が見直される良い機会になったのではないのでしょうか。ことに「令」の書き方が話題になりましたが、これは一先ずおくとして、文字は実用と芸術を兼ね備えています。言うまでもなく、書道展は美意識の発露としての芸術になります。

本市美展の漢字作品は形式が整い、作品づくりに精通し、さらに古典を踏まえて健全な作品ばかりでした。全国どこに出品されても引けを取りません。

仮名、調和体、篆刻の作が少ないのが残念ですが、表現手法は手馴れていました。それらの中でも特別賞に輝かれた作品は、確かな技法の上に自己の思いを前面に表出した作でした。

〈特選〉の岡崎一華さんの行草作は、横広の造形の雄大さに存在感あふれる線があいまって、匂い立つような風韻がただよっていました。〈準特選〉の植野桂石さんの多字数作は、やや淡い墨色で品格あふれる作品に仕上がっていました。無理のない柔らか味あふれる線が何よりも修練の賜だと思います。同じく〈準特選〉の小野麗華さんの縦三行作は、流れるような律動美の中に、潤濁の妙が加味され、奥行きと立体感が生まれた佳作でした。

今回惜しくも入選とならなかった作品にも個性の光る作がありました。やみくもに書くだけでなく、鑑賞眼を養うことも上達の秘訣です。目先にとらわれず、高い目標をにかけて、楽しく日々の精進を重ねてほしいと願っています。

書道 部門審査委員

松清 秀仙

日展会員・鹿児島大学名誉教授・読売書法会常任理事

審査講評
【写真部門】



講評
総評

2005年と2006年に続き、今回で三回目の審査をさせて頂きました。前回と同様、作品のバリエーションが豊富で、様々な被写体をモチーフにした作品が応募され、どれも力作揃いで、作者の熱い想いや視線が伝わってくるものでした。そんな出品者の熱意に応えるべく、慎重な姿勢を崩さずよりシビアで細やかな吟味を意識しつつ審査にあたりました。応募作品のジャンルは幅広く、作品の出来映えも高いレベルのものが目に付きましました。そんな中で入選された作品は、やはり作者の想いや表現の意図が明確に伝わるものであり、さらにそこで趣きや品格が備わった逸品が残りました。今回は残念ながら落選となった作品の中でも、おもしろい狙いどころの表現や新鮮な印象を受ける作風が数多く見受けられました。今回は残念な結果となった方も諦めず次回もチャレンジしてほしいと思います。

選評

延岡市長賞「初夏の宵」 甲斐 靖一 様

絶好のシャッターチャンスを的確に捉えられ、メルヘンチックな絵に仕上げられました。蛍の光に注目した着眼点が素晴らしく、縦位置の画面構成で、花のフォルムや光の明暗の変化などにも配慮された絵作りが秀逸でした。作者の花や蛍に寄せる優しさやデリケートな感性が読み取れます。

宮崎県教育長賞「降臨の刻」 福川原 敏憲 様

茜色に染め上げられた空のグラデーションの彩りが、とても美しく魅力的です。神秘的な空気感が漂う情景描写に仕上げられました。また、この画面で最も印象深く、荘厳な雰囲気を出しているのが新月の姿。こんな繊細な月の表情も見逃さずしっかりと絵作りされた視点が絶妙でした。

延岡市教育長賞「あの日の思い出」 千葉 雄一 様

ノスタルジックなイメージを感じさせる校舎のような建物の前で、赤い傘をさす女性の姿が印象的に配されています。心象風景的な雰囲気が漂う表現に、独特の趣きや物語性が感じられ、とてもおもしろい独創性に富んだ絵に仕上がっています。千葉さんの柔軟な発想と絵作りの巧みさが光りました。

延岡市文化連盟会長賞「山峡の蛍」 戸高 一 様

水辺に輝きを放つ蛍の光の軌跡が見事に表現されました。妖艶な色合いに染まる流れの色調描写も絶妙で、蛍の光をより印象深く演出しています。画面を通して、その場の清浄な雰囲気や静寂感が伝わってくるような気がします。流れを真正面から捉えたシンメトリックな構成が奥行き感を強調し、味わい深い空間表現に繋がりました。

延岡市文化連盟会長賞「鯉のぼりストリート」 雀ヶ野 秀憲 様

とてもおもしろい情景が巧みに表現されています。非現実的なモチーフの中で、その意外性のある状況をしっかりと見極め、まるで鯉のぼりのお腹の中に入ったようなイメージをおもわせるユーモラスな絵作りでまとめ上げられました。人物を画面に配したことで、被写体のスケール感が読み取れ、よりインパクトのある画面に仕上がっています。

写真部門審査委員

江口 慎一

(公社)日本写真家協会会員

■第69回延岡市美術展覧会 出品状況

部 門	出品者数			出品作品数			C 招待作家 無鑑査	合計 (無鑑査等含む)		展示作品数	
	A	うち2点 出品者	うち3点 出品者	一般	学生	B 小計		出品者数 A+C	作品数 B+C	入賞 +入選数	無鑑査等を 加えた展示数
洋 画	51 人	7 人	1 人	60 点	0 点	60 点	4 人	55 人	64 点	39 点	43 点
日本画 水墨画 ちぎり絵等	11 人	2 人	0 人	13 点	0 点	13 点	1 人	12 人	14 点	9 点	10 点
彫刻 工芸	29 人	6 人	2 人	38 点	0 点	38 点	3 人	32 人	41 点	22 点	25 点
デザイン	5 人	0 人	0 人	3 点	2 点	5 点	2 人	7 人	7 点	4 点	6 点
書 道	50 人	5 人	0 人	53 点	2 点	55 点	8 人	58 人	63 点	38 点	46 点
写 真	97 人	37 人	5 人	144 点	0 点	144 点	2 人	99 人	146 点	73 点	75 点
合 計	243 人	57 人	8 人	311 点	4 点	315 点	20 人	263 人	335 点	185 点	205 点

今回も多数のご出品を

ありがとうございました



第35回国民文化祭・みやざき2020
第20回全国障害者芸術・文化祭みやざき大会
2020年10月17日(土)～12月6日(日)

会期 : 令和元年6月29日(土)～7月12日(金) 9:00～17:00 ※休館日7月2日、9日を除く
会場 : 延岡総合文化センター 展示室1・2
主催 : 延岡市美術展覧会実行委員会、延岡市、延岡市教育委員会、延岡市文化連盟
後援 : 宮崎県、宮崎県教育委員会、延岡市議会、旭化成(株)延岡支社、(一社)延岡市医師会、
延岡商工会議所、夕刊デイリー新聞社、宮崎日日新聞社、(一社)延岡市西臼杵郡薬剤師会、
延岡農業協同組合、清本鐵工(株)、センコー(株)東九州主管支店、(一社)延岡市歯科医師会
(順不同)
